





甲陽軍鑑全集卷十

合戦之巻

- 一 力込山ハ 俊忠付キ 希菴和 和為中
- 二 後家康公魁 虎ハ 俊忠付 謙信川中ハ 信長中
- 三 遠三ハ 信長中 備定中
- 四 二ハ 信長付 信方原 合戦中
- 五 高坂ハ 信長付 信長中 刑ハ 信長中 信長中
- 六 小糸氏改 信長中 信長中 信長中 信長中
- 七 信長中 信長中 信長中 信長中 信長中

信長公孫...

一

- 八 公方の信玄也付并公方は信玄所病と云
 - 九 東義法沖が馬目傷付名村が城と云
 - 十 信玄公逝去付沙遺云付事
 - 十一 信玄公沙一代攻五郎城と云
 - 十二 對陣之時氣と云
 - 十三 信玄公十六歳より五十三歳まで付武勇廿二ヶ条
 - 十四 多岐浮正付夏
 - 十五 沖家中法士と礼三ヶ条付 國法有る事
- 人よ治く教免并 沙あ申事候定と云

平陽軍鑑全集 卷十四

合戦之巻

○一 身延に彼と付希宿和尙と云

元龜三年申年。初乃正月廿一日信玄公身延山へ以て攻進未。織田信長叡山と燒亡と。因之身延と叡山より水を發地。今の身延と云。長野と云。建立らば相法と云。而るに出家願ひ過り。日蓮上人の教のありて。圖と云。なむと云。了りとして。之をわが寺と云。これ合志の圖と云。と云。と山の聲より。約念と云。方勢の注記傳と云。不思慮也。日蓮の若多と云。そのの沙也。それと云。信玄公の志也。其の來は北東乃叡山中と云。和と云。内なる也。又國山流希宿和尙義濃國と云。甲府人沙峰と云。志也。引と云。秋山伯耆守。一徳貞同年十一月廿六日。敵の透波より。信玄の松澤源五郎

小田切と明林と申す一人也。びるもの十日の内はねおし。或てん
うとうた。落るうとて死なば云ふも聖年四月十二日河内他男
也。出家とあるうわねと云ふ河内なりてい

○二 後家康と野尻の世に村謙信川中流出陣云々

同年四月月中旬自家康、今昔、小笠原を伴良、二月一介
大井川と戦て、河原とて、物部時引、若石、数えり、あ、同月
廿八日、越中の推后、肌あまの、り、去年、未の九月、徳川家康、
野尻へ、あ、侍、人、八、加、納、房、一、人、越、后、小、治、良、
は、戦、ひ、り、く、徳、信、も、死、せ、ゆ、後、も、あ、の、く、後、云、の、中、信、
康、の、う、ま、の、を、あ、ま、の、う、ら、二、三、年、野、尻、に、逃、れ、
一、子、に、ま、い、信、長、の、威、光、あ、つ、つ、り、あ、と、
中、一、し、し、を、信、長、計、り、て、い、家、康、形、と、く、
な、ま、ま、と、野、尻、と

於、下、の、成、ゆ、と、て、去、る、家、の、氣、持、り、
ら、あ、ゆ、り、の、う、ま、の、の、信、を、也、家、康、の、
あ、事、心、と、遠、く、元、徳、二、年、の、後、
信、長、と、い、は、し、

追、る、吉、村、武、指、虎、
野、末、
之、後、
有、り、と、い、は、し、

八月廿五日 野尻

松平友を返

野末、通、信、管、速、
此、後、

そなたの儀。仙林の傍にあり。佐玄の御代に於ては。佐長を以て。全う
侍て。御代に侍り。と云ふ。佐長は。民を懐く。心なす。佐玄の御代に
の佐長は。御代に侍り。と云ふ。佐長は。民を懐く。心なす。佐玄の御代に
と仙林の傍にあり。佐玄の御代に於ては。佐長を以て。全う
侍り。と云ふ。佐長は。民を懐く。心なす。佐玄の御代に
の佐長は。御代に侍り。と云ふ。佐長は。民を懐く。心なす。佐玄の御代に

天正元年 五月

五月廿七日

佐長

と世に侍る物殿

○九 東美濃沙出る日。湯村岩村高城と云ふ

天正元年五月九日。佐玄の御代に於ては。佐長を以て。全う
侍り。と云ふ。佐長は。民を懐く。心なす。佐玄の御代に
の佐長は。御代に侍り。と云ふ。佐長は。民を懐く。心なす。佐玄の御代に

佐長は。民を懐く。心なす。佐玄の御代に
の佐長は。御代に侍り。と云ふ。佐長は。民を懐く。心なす。佐玄の御代に
と仙林の傍にあり。佐玄の御代に於ては。佐長を以て。全う
侍り。と云ふ。佐長は。民を懐く。心なす。佐玄の御代に
の佐長は。御代に侍り。と云ふ。佐長は。民を懐く。心なす。佐玄の御代に

天正元年 五月

佐長

他方のちのちと戦ふと知る。お供よらあつた。或は城とさしり。
 扱又方の城とつと敵とたつとつらふ。お供とす。里地の内へ
 味津と接。月より事とつ。屋敷様とてお供。或人の云。後言
 沙あり。お供人をい。お供はか。お供はか。お供はか。
 十日よ。お供の城とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。
 と。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。
 續らる。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。
 之列の。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。
 下の。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。
 され。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。
 の。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。
 ふ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。

村の。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。
 氏政の。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。
 辨と。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。
 扱。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。
 或。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。
 ら。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。
 る。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。
 扱。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。
 て。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。
 扱。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。
 扱。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。
 と。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。お供とつ。

- ▲三河之内為城 一長藤内 一犬坂 一和さうし
- 一田代 一八素 一和と利 一野田 一足助
- 一和くし 是八河等あり 一かきり

▲流別之内為城

一岩村

右の如く本巻は流長の初めから流別と海を分ける所の為城。又を別する所は流別と海を分ける所

三十一の傍に云
田代の為城

▲飛騨之國

一和さうし。是を又佐云ふ所也。山嶽一

としてせぬなり

▲越中

一推名物と云ふ三つ。本巻は流別と海を分ける所

と云ふ所也。及ばぬ飛騨は別越中推名物なり

▲流別之内

一内村

一和さうし

一小山流別一福法口才云八節一福鹿

一牧野大寺

一和まがらた奥野

一和山主殿

一和月云八節 佐別を月云八節

一小山

一和山主殿

一和月云八節 佐別を月云八節

右の如くは流長の初めから流別と海を分ける所

○十二 対流之河を分ける所。流長と云ふも。本巻は流長と云ふ

右の如くは流長の初めから流別と海を分ける所

一宮



二高



三角



四徴

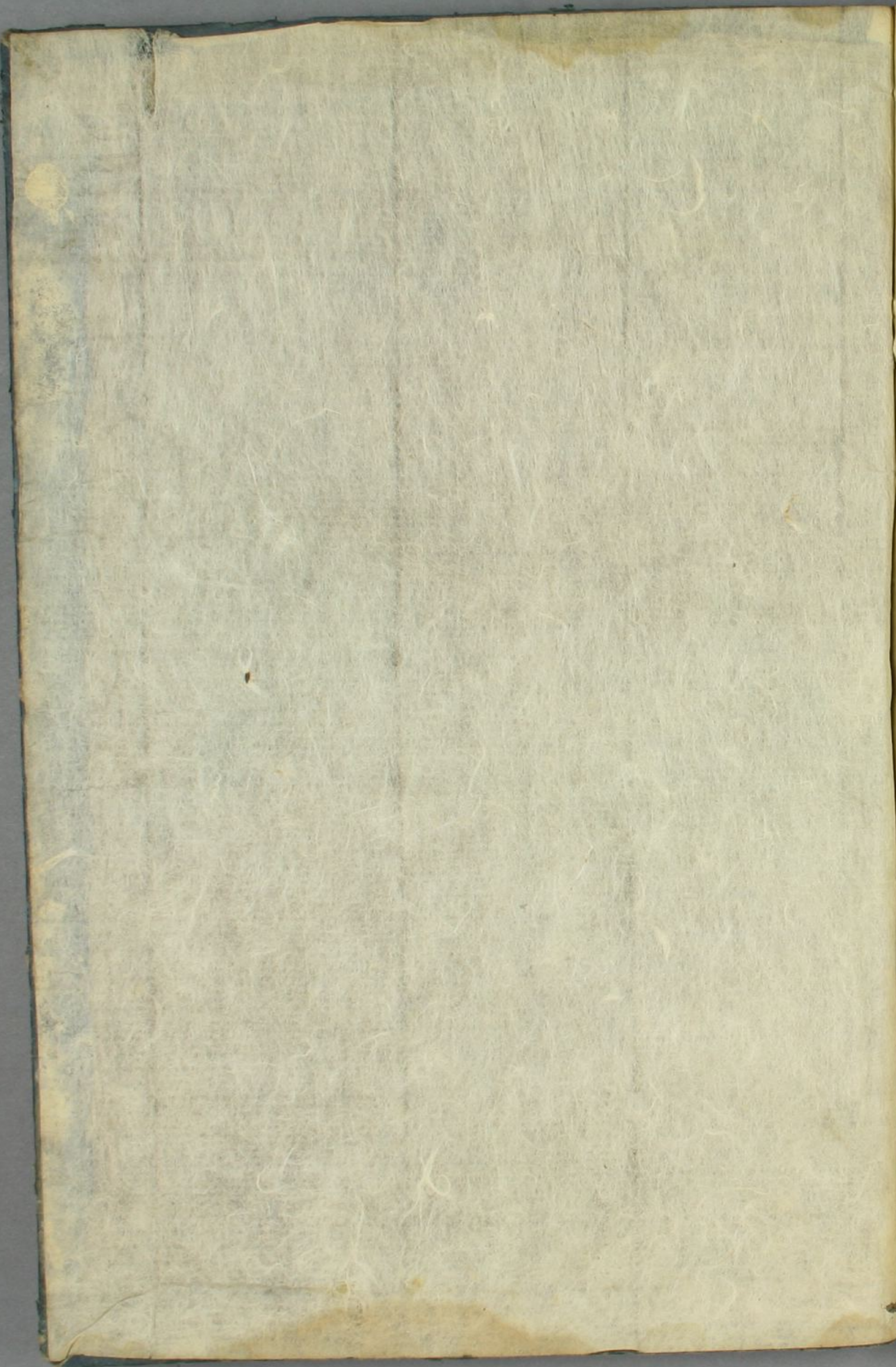


五羽



是を山中初め。氣之見極也

天の元年四月十二日との書。右の如くは流長の初めから流別と海を分ける所。本巻は流長と云ふ



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, enclosed in a rectangular border. The text is written in a dark ink and is arranged in several lines. The script is highly stylized and difficult to decipher, but it appears to be a form of historical shorthand or a specific dialect. The text is written on a light-colored, aged paper that shows signs of wear and discoloration. The right edge of the page is bound to the spine of the book.

